



## みやざき新農業創造プラン

第七次宮崎県農業・農村振興長期計画（後期計画）

～新たな時代の変化に対応したみやざき農業の成長産業化を目指して～

# 《第4編》地域別ビジョン

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 第1章 基本的な考え方 ..... | 131 |
| 第2章 地域別ビジョン ..... | 133 |

# 《第4編》地域別ビジョン

## 第1章 基本的な考え方

### 1. 策定の目的

本県は、平地から中間高台地、山間部に至る多様で豊かな立地条件等を有しており、県全体として農業・農村の振興を図るためには、それぞれの地域がその特長を生かしながら、地域独自の個性的な農業・農村づくりを推進していく必要があります。

このため、長期ビジョンや基本計画を踏まえながら、地域の特性や課題に応じた地域農業・農村のめざす発展方向を示します。

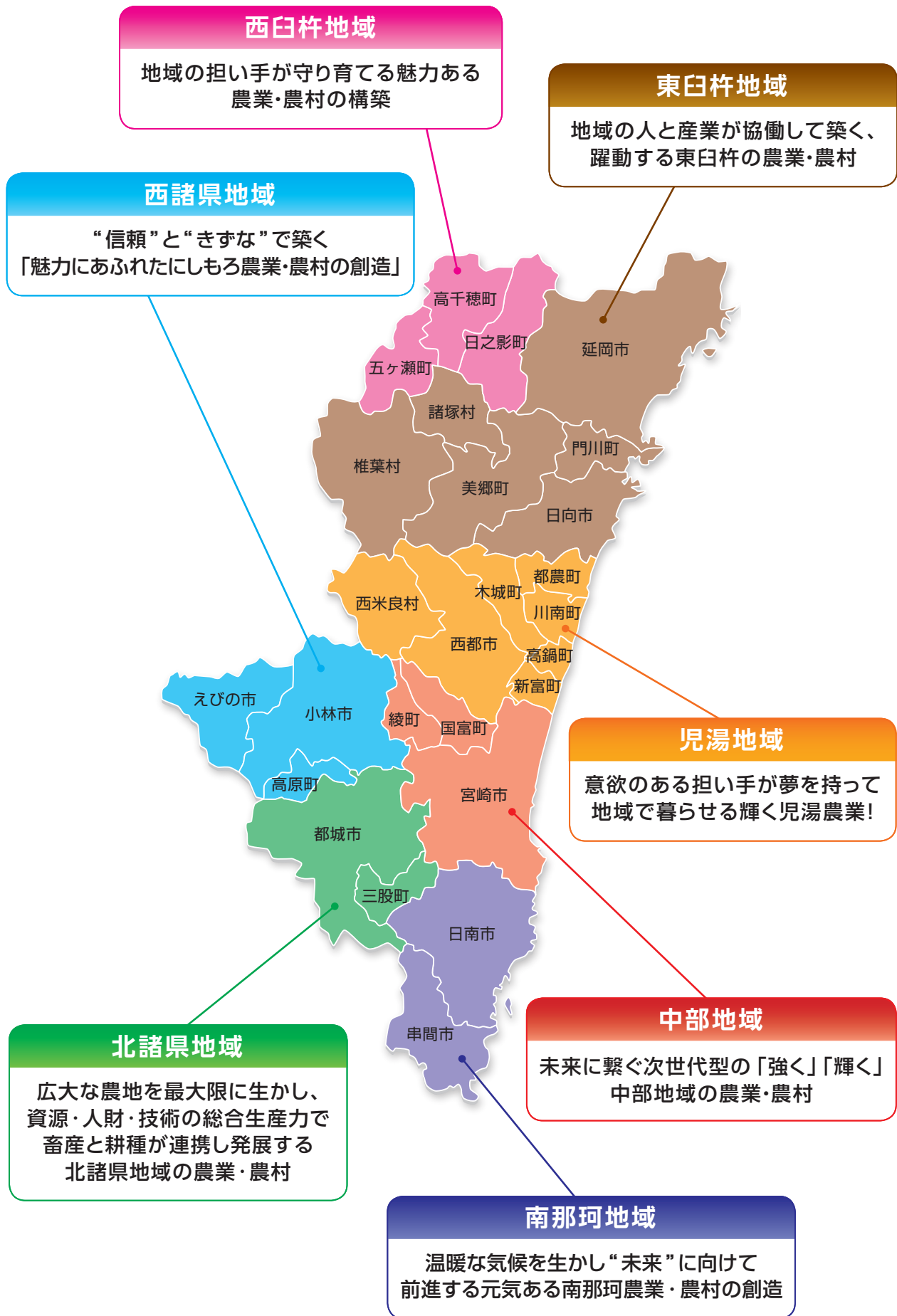
### 2. 地域区分

地域区分は、地理的条件や社会条件を勘案し、支庁・農林振興局の所管区域にあわせて7つの地域を設定します。

| 地 域 名 | 市 町 村 名                      |
|-------|------------------------------|
| 中 部   | 宮崎市、国富町、綾町                   |
| 南 那 珂 | 日南市、串間市                      |
| 北 諸 県 | 都城市、三股町                      |
| 西 諸 県 | 小林市、えびの市、高原町                 |
| 児 湯   | 西都市、高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町 |
| 東 臼 杵 | 延岡市、日向市、門川町、諸塚村、椎葉村、美郷町      |
| 西 臼 杵 | 高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町               |

### 3. 推進体制

地域別ビジョンでは、それぞれの地域がめざす発展方向や今後5年間で重点的に取り組む施策を示し、農業者、消費者、農業団体、市町村等と連携しながら、地域の特徴を生かした農業・農村づくりを推進します。



序章

長期ビジョン

重点プロジェクト

基本計画

地域別ビジョン

推進体制

参考資料

## 第2章 地域別ビジョン

### 1. 中部地域

#### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 中部地域は、施設園芸を中心に県農業産出額の約2割を占める県内有数の農業地域であり、高度な管理技術を結集した次世代施設園芸ハウスや畑地かんがい用水を活用した営農に加え、肉用牛の優良繁殖雌牛による子牛生産、地域資源を生かした6次産業化など、多彩な農業が展開されています。
- 今後、リタイヤする農家の増加により、農業生産力や集落機能の低下、遊休農地の増加等が懸念される中、関係機関・団体が連携した新規就農者の就農支援システムの構築、県外や他産業からの農業参入、キャトルステーションや農作業受委託等による農業経営の分業化など、産地維持のための取組が進んでいます。
- 消費ニーズの多様化が進み、国内外の産地間競争が激化する中で、農家所得を確保していくためには、次世代の地域農業・産地を支える人財育成や経営環境の整備、生産技術の高度化など産地力の向上のための先進的な取組を拡大するとともに、マーケットニーズに対応した生産から流通、販売に至る取組を強化する必要があります。

#### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

##### 未来に繋ぐ次世代型の「強く」「輝く」中部地域の農業・農村

##### 《めざす将来像》

- ➡ 農業生産の中核を担う認定農業者や営農組織等に加え、意欲の高い新規就農者や地域をけん引する高度な経営能力を持った経営体が育成され、生産基盤など経営環境の整備を通じて、これらの担い手が次世代の地域農業を支えています。
- ➡ 環境に優しい農業や農村の有する多面的機能を保全する活動が活発に展開され、豊かな環境・資源が次世代に継承されています。
- ➡ 革新的な生産技術・施設の導入による農畜産物の生産性向上、農業経営の分業化、生産・流通コストの削減により、国内外の競争に対応した収益性の高いゆとりある次世代型農業経営が展開されています。
- ➡ 気象変動や危機事象等への備えと対応を盤石にした計画的かつ安定的な産地体制が構築されています。
- ➡ 国内外の消費ニーズに対応したマーケットイン型産地が確立されるとともに、6次産業化・企業参入等経営の多角化による雇用の創出等が進み、農村地域の活性化が図られています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 地域農業の核となる力強い担い手の育成・確保と経営環境の整備

- 新規就農者の就農・定着のための支援活動や生産技術・経営能力に優れた地域をけん引する人財の育成を更に強化するとともに、集落営農の組織化や企業参入を支援し、地域農業の維持と生産の安定を図ります。
- 農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約による効率的な農地利用や農業生産施設・生産基盤等の整備により、担い手の経営向上のための経営環境を整えます。
- 日本型直接支払制度の活用、鳥獣被害対策を通じた地域ぐるみの共同活動など、担い手の負担軽減や農村機能の維持等活力ある農村地域の取組を支援します。

#### 生産力の向上による国内外の競争に強い農業の構築

- ICTを生かした高度な生産情報管理や複合環境制御技術、省石油技術など革新的技術の導入・波及により、次世代型の農業生産体系を推進します。
- 生産工程の連携・分業化による生産性の向上と規模拡大、地域が連携した営農戦略による収益性の向上及び流通の効率化を進めます。
- 耐候性ハウスや農業用ため池の整備、畑地かんがい用水を活用した営農など、気象災害に強い生産体制を構築し、農畜産物の生産力を強化します。

#### 多様なマーケットニーズに戦略的に応える商品づくり・産地づくり

- ニーズに的確に対応した売れる商品供給に取り組むとともに、健康志向など変化するニーズに柔軟に対応した新たな商品づくりを推進します。
- 宮崎方式ICMやGAPなど病害虫に強く環境への負荷を低減した安全・安心な農業生産の推進や家畜防疫の徹底に引き続き取り組み、取引先に信頼のある産地を確立します。
- 契約取引による安定的な取引を拡大するため、水田裏作を有効利用した新品目・営農体系の導入や畑地帯における露地野菜を中心とした新たな産地づくりを進め、土地利用型農業を強化します。
- JAと法人の垣根を越えた連携による新たな取引、新たな国際化を契機とした攻めの輸出、参入企業との連携による地域資源を生かした6次産業化など、取引と販売の機会創出を支援します。



関係機関・団体が連携した新規就農者の就農支援



高度な生産管理技術を活用した次世代施設園芸団地



## 2. 南那珂地域

### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 南那珂地域では、温暖な気候を生かし、全国でも有数の産地となっている超早場米やかんきつ類、食用かんしょ、スイートピーをはじめ、施設きゅうり、ピーマン、肉用牛、養豚、みやざき地頭鶏など、多彩な農畜産物が生産されています。
- その生産を支える認定農業者数は、近年、横ばいとなっていますが、農用地利用改善団体は増加傾向であり、平成26年度から始まった農地中間管理事業も、農用地利用改善団体を中心に県内の他地域に先駆けて取組が進んでいます。
- 一方では、担い手の高齢化や農家戸数の減少により、生産力の低下や集落機能の維持が難しくなることが危惧されています。このため、地域の特性を生かし、新たな取組に挑戦する多様な担い手の育成・確保と、これを支える経営資源（農地、施設、技術等）の円滑な継承などの条件整備が急務となっています。
- また、消費者の健康志向や食の安全性に対する関心は高まっており、消費者のニーズを的確に捉え、確かな販売戦略を持ち、信頼に応えられる産地が求められています。
- 今後、県内生産額の過半を占める漁業や森林資源の充実している林業と併せて、農・林・水産業のいずれの分野でも豊かな一次産品を供給できる地域の潜在力を生かした6次産業化や輸出による新たな販路拡大・定着により、地域の活性化が期待されます。

### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

#### 温暖な気候を生かし“未来”に向けて前進する 元気ある南那珂農業・農村の創造

##### 《めざす将来像》

- ➡ 全国有数の温暖多照な自然条件を最大限に生かしながら、経済社会の変化に対応できる経営感覚を持った担い手が育成・確保されています。
- ➡ 基幹農畜産物の産地ビジョンに基づき生産体制を強化し、特色ある商品づくりや、多様化するニーズに対応できるマーケットイン型の攻めの産地づくりを進めています。
- ➡ 地域資源と食と農の結びつきを強化し、地域や農地を守り育て集落ぐるみで農業生産を支える「元気ある地域づくり」に取り組んでいます。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 地域農業の核となる担い手の育成・確保

- 「人・農地プラン」を核とした地域の話し合いを推進し、経営ビジョンを持ち、経営安定・向上のために新たな取組に挑戦する気概を持った担い手の育成・確保に努めます。
- 新規就農者、集落営農組織、法人などの多様な担い手の参入が円滑に行えるように、技術修得から経営安定・定着まで経営計画を実現できるよう関係機関が一体となって支援します。
- 農業の生産性を高めるため農地中間管理事業やほ場整備等の取組を推進し、認定農業者や集落営農組織、農業法人など中心経営体への農地の集積を促進します。

#### 儲かる農業の実現に向けた取組の推進

- 地域の特性を生かし、基幹作物を中心とした生産体系を一層強化するため、水田のフル活用や果樹産地の再編等の取組を推進します。
- 主要品目の収量・品質の向上や環境への負荷軽減を図るため、宮崎方式ICMやICT導入等の取組を積極的に進めます。
- トレーサビリティシステムの確立やGAPへの取組など、安全・安心な農畜産物の供給システムを推進します。
- 肉用牛の生産基盤を強化するため、子牛生産から肥育までの経営内、地域内一貫生産体制を推進します。
- 6次産業化や海外への輸出促進による新たなマーケットの創出を推進します。

#### 地域資源を活用した元気ある地域づくり

- 風光明媚な海、豊かな農村・森林などの地域資源と食と農の結びつきを強化し、食育・地産地消運動の拡大や直売所等を核とした都市と地域の交流が深まる取組を推進します。
- 地域自らが農村の美しい景観を守り創造する気運を醸成し、日本型直接支払制度の活用による植栽や水路・農道等の管理を支援します。
- 鳥獣害対策や家畜防疫等に地域が一体となって取り組む生産環境づくりを推進します。
- 火山活動による降灰被害や気象災害など、防災営農に対応した施設整備を進めるとともに、災害時には迅速に対応する体制を整備し、関係機関・団体との連携・協働を図ります。



人・農地プラン検討会



きんかんの樹形づくり指導

### 3. 北諸県地域

#### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 北諸県地域の農業は、畜産が農業産出額の約8割を占める一方、耕種では、広大な農地を基盤として、野菜やいも類、水稻を中心とした土地利用型作物の生産が盛んです。
- 畜産は地域の基幹産業であり、地域経済にも大きく寄与していますが、構造改革をはじめ、競争力強化に向けた更なる取組が必要です。  
特に、全国屈指の子牛市場を有する肉用牛では、高齢化が進む中、廃業する経営体もあり、頭数確保のための生産基盤対策が急務となっています。
- 飼料作物では、個別経営体を中心としてWCS用稲や飼料用米の生産が拡大していますが、コントラクター組織による受託生産は少なく、生産基盤対策の観点からも外部委託による均一で低コストな飼料生産が求められています。  
また、飼料作物の品質(成分)の面からは、土づくりや適正施肥などの課題も抱えています。
- 耕種では、一部で農業法人や集落営農組織、個別経営体による大規模経営が展開されているものの、必ずしも農地の集約化・団地化が進んでおらず、また、畑地においては、天水に頼った営農が行われており、更に生産性の高い農業を実現する必要があります。

#### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

**広大な農地を最大限に生かし、資源・人財・技術の総合生産力で  
畜産と耕種が連携し発展する北諸県地域の農業・農村**

##### 《めざす将来像》

- ➡ 肉用牛では、入植団地等の整備、飼養管理や飼料生産の分業化による増頭、繁殖・肥育の一貫経営等の取組が進んだことにより、優秀な繁殖牛が地域内に十分確保されています。  
また、飼養管理技術の改善により繁殖牛の1年1産が達成され、市場では安定的な取引が行われるなど、全国屈指の肉用牛産地が維持されています。
- ➡ コントラクター組織やTMRセンター、耕種農家による飼料生産が拡大し、分業や連携のもと高品質で均一化され、安全・安心で低コストな自給飼料の給与が進んでいます。
- ➡ 耕種では、かんがい施設の整備など高機能化した農地において、大規模経営体やJA部会組織を中心とした産地経営体が地域農業をけん引し、生産性の高い農業が展開されています。
- ➡ 生産者や関係者、関係業界の有機的連携のもと、輸出に向けた体制が強化され、牛肉などで輸出が増加しています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 地域の実情に即し、関係者が連携した畜産経営の国際競争力強化

- 畜産関係者が有機的に連携し、生産性の向上や生産コストの低減に向けた取組を地域ぐるみで進めます。
- 特に生産基盤対策が急務となっている肉用牛では、経営体個々の増頭や一貫経営の拡大を支援するとともに、育成牛(妊娠牛)供給センターなど、当地域にあった肉用牛分業化システムの構築を進めます。  
また、子牛出荷日齢早期化や分娩間隔の短縮等に向けた飼養管理技術の改善を図るとともに、技術・経営能力を兼ね備えた人財の育成に取り組みます。
- 飼料生産では、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化、大区画化と合わせ、コントラクター組織等による生産拡大や組織間の連携強化を進めるとともに、土壌や飼料の分析結果に基づく良質な飼料生産並びに給与体系の普及を図ります。

#### 農地と水を高度に利用する経営力の高い経営体の育成

- 集落営農組織や個別経営体の法人化を促進し、法人化後においても研修会や情報提供により経営発展を支援します。
- 水田でのブロックローテーションや畑地の輪作体系の確立を目指し、農地の集積・集約化や生産基盤の整備を図るとともに、農作業の分業化や機械化体系による作業の効率化、規模拡大の取組を推進します。  
また、労働力確保のための人財バンク等の仕組みづくりや周年雇用を確保するための作付体系の構築・改善、加工・販売の取組を促進します。
- 特に畑地においては、加工・原料用作物の契約栽培など、多様な市場ニーズに対応できる計画性・生産性に富んだ農業経営が実現できるよう、畑地かんがい用水の利用技術を経営体への直接巡回や実証などにより普及します。



都城地域家畜市場でのセリの様子



畑地かんがい用水を活用したにんじん栽培

## 4. 西諸県地域

### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 西諸県地域は、農業産出額の約7割を占める畜産を中心に、冷涼な気候条件を生かした野菜や花きの生産をはじめ、稲作や果樹など多彩な農業が展開され、県内有数の農業地帯となっています。また、当地域の耕地面積については、畑地の割合が53.4%を占め、県全体の畑地割合に比較して高くなっています。
- 当地域は他地域に比較して高齢化率が高く、担い手の減少が加速しており、地域の農業を担う新規就農者の確保、認定農業者の育成、法人化による集落営農組織の強化等が急務となっています。
- 担い手への農地の利用集積が大きな課題となっている中で、農地中間管理事業が開始されていますが、モデル地域によっては事業初年度において県内でもトップクラスの集積率を達成しています。今後とも、事業を推進し、農地の円滑な利用集積を進める必要があります。また、畑地かんがい用水(生農地の水)の本格通水に向けた施設等の整備に伴い、加工・業務用需要に対応した農作物の産地としての新たな展開が必要です。
- 地球規模での気象変動や、鳥獣被害、家畜疾病のまん延など、常在危機に対応するための営農対策や家畜防疫対策を更に強化し、これらのリスクに的確に対応する必要があります。
- 地域の高品質な農畜産物を材料とした「6次産業化」や「農商工連携」が進められていますが、TPP協定に代表される国際競争の激化に備えるため、今後とも、農家所得向上に向けた取組を強化する必要があります。さらに、地域の活性化につながる農家民泊も進んでおり、地域の特性を生かした「むらづくり」や「食育・地産地消」についても強化する必要があります。

### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

#### “信頼”と“きずな”で築く「魅力にあふれたにしもろ農業・農村の創造」

##### 《めざす将来像》

- ➡ 集落営農組織を中心に新規就農者、認定農業者、女性農業者等の多様な担い手が連携しながら、地域の農業を支えています。
- ➡ 国際化が進展する中で農業者が展望をもって安心して営農に取り組み、また、実需者からは、高品質な農畜産物を確実に供給できる有数の産地として信頼されています。
- ➡ 畑地かんがい用水が活用され、農地の利用集積も進み、付加価値の高い農産物が安定して生産されています。
- ➡ 地域の農業資源を活用した6次産業化が進み、所得が向上するとともに、魅力ある地域が形成されています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 地域の農業をけん引する“担い手の確保と経営の安定化”の推進

- 新規就農者等の就農準備や経営開始、早期の経営定着まで、関係機関が連携しながら、技術や経営を総合的に支援します。
- 集落営農組織の育成、活動の充実・強化、法人化を進めます。また、集落営農組織の広域活動や多様な担い手等との連携を推進し、地域農業の維持・活性化を図ります。
- 「人・農地プラン」を推進し、中心となる経営体に農地の集積等を進め、経営の効率化と安定化を支援します。

#### 国際化時代を生き抜く、競争力の高い“にしまろ産地”の新たな展開

- 経営規模拡大や栽培・飼養管理等技術の高度化を通じた生産性や品質、ブランド力の向上により、産地競争力の強化を図ります。
- 需要に応じた農畜産物の生産拡大を図る生産・販売サポートシステムを構築します。
- 地域防疫体制の強化を図るとともに、新奇病害虫や鳥獣による被害の防止対策や燃油価格高騰に備えたセーフティネットなど、安心して営農に取り組める仕組みを構築します。
- 農薬・化学肥料使用量の低減や資源循環などによる、環境に優しく持続可能な農業を推進します。

#### 明日の農業経営を支える“にしまろ畑かん”の総合的推進

- 儲かる農業の実現をめざした生産性向上と高付加価値品目への転換を可能とする畑地かんがい施設の整備を推進します。
- 農地の利用集積や機械の大型化など土地利用型農業の実現を目指し、農地中間管理事業と連携した基盤整備を推進します。

#### 豊富な農業資源を生かした“魅力ある地域づくり”の推進

- 地域の資源を生かした6次産業化への取組による新たな商品の開発を推進し、食育や地産地消、更には農家民泊への取組を展開します。
- 日本型直接支払制度を活用した農地の保全管理や適正な維持管理を推進し、地域住民と農家が一体となった管理体制を支援します。
- 農村地域にある湧水等、農村特有の魅力や資源を活用した小水力発電などの自然エネルギーの導入を促進するとともに、集落の祭りや伝統文化等を継承する集落機能改善への取組を支援します。



担い手の確保と経営の安定化の推進  
新規就農者・農業後継者・女性農業者等を対象にした  
「アグリベーシックセミナー」



にしまろ畑かんの総合的推進  
畑かん用水を活用した加工・業務用野菜の  
収量・品質の向上

## 5. 児湯地域

### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 児湯地域は、先人のたゆまぬ努力により、農地を開拓し、竹で作った施設園芸のチャレンジやマンゴーなどの新品目を産み出すなど、本県農業をけん引し、地域の青年の多くを農業後継者が占め、活気があり、新技術の開発や導入等に何処よりも早く取り組み、チャレンジ精神の旺盛な地域として発展してきました。しかしながら、担い手の減少・高齢化が進む中、口蹄疫等の影響もあり、これまで培ってきた産地の衰退にとどまらず地域活力の低下が懸念されています。
- 今後更にリタイヤする農業者が急増することが見込まれる中、新規就農者は毎年35名程度にとどまり、農業者の減少を充足できておらず、法人化や他産業からの農業参入の動きも低調で、農業構造改革が進んでいない状況にあります。
- 農家所得低下→担い手減少→産地・地域衰退といった負のスパイラルに陥ることなく儲かる農業を実現するには、資金・労力で余力を産み出して規模拡大や経営多角化等への投資が活発化する仕組みづくりが必要であり、これまでの取組の延長ではなく将来に向けた抜本的な改革へのチャレンジが求められています。

### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

**意欲のある担い手が夢を持って地域で暮らせる輝く児湯農業！**

#### 《めざす将来像》

- ➡ 地域の恵まれた資源をフルに活用した新たな産地づくりや高付加価値化の取組が進み、地域内における所得確保や就業の場が創出され、地域の活性化が図られています。
- ➡ しっかりと後継者が定着するとともに、U・Iターン者の定住や他産業からの農業参入も増加し、児湯農業が持続的に発展しています。
- ➡ 次世代を担う意欲のある担い手により、イノベーションによる先端技術を取り入れた次世代経営へのチャレンジが始まり、農業が若者にとって魅力的な産業となっています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 恵まれた地域資源をフル活用した産地づくりで地方創生をけん引

- 本県農業の主要産地として当地域が培ってきた人財や生産技術をフルに活用し、日本一施設園芸産地の再生と加工・業務用農産物の生産拠点づくり、さらには、全国のモデルとなる安全・安心で収益性の高い畜産の振興を図ります。  
また、輸出に挑戦する産地づくりを進め、新たな販路開拓にも取り組みます。
- 地域資源を生かした儲かる産地づくり(マーケットニーズに応える体制)を推進します。
  - ・ 恵まれた農地を活用して、経験豊富な農業経営者が、ブランド価値を創造する取組を支援します。
  - ・ JA部会や集落営農組織、法人経営体等が戦略的に連携した「産地経営体」を支援します。
- 新たな価値創出や商品づくりなど、裾野の広い6次産業化をはじめとするフードビジネスの取組を積極的に進め、若者の人口流出の抑制や交流人口の拡大を図ります。

#### 多様な担い手の確保と高い経営力・技術力を持つ人財の育成

- 親からの円滑な継承に加え、農業ビジネスとして展開するための生産条件の最適化を支援します。
- 就農・相談、農地確保から資金・技術など、一貫したワンストップ支援体制を整備し、U/Iターン者や他産業からの農業参入を推進します。
- 高い経営力・技術力を持った人財の育成と女性が活躍できる場づくりを進めます。

#### 儲かる農業を先導する次世代経営へのチャレンジを促進

- 規模拡大や低コスト省力化技術の導入、効率的な雇用確保など、経営感覚に優れた担い手の高収益経営への転換を積極的に支援します。
- 企業の経営を可能にするICT技術の導入など、児湯農業のトップランナーのスマート農業へのチャレンジを支援します。
- 農地中間管理事業のフル活用により、担い手への農地集積・集約化を加速化させ、儲かる水田・畑作営農、飼料自給率の向上を進めます。



地域を担う若手グループによる産地ビジョンの検討



畑かんを活用した大規模な土地利用型農業の展開

## 6. 東臼杵地域

### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 本地域の農業は、水稻を基幹とした経営体が多い中、生産性の高い水田農業を展開するため、水田のフル活用等を図るとともに、延岡市、日向市といった大消費地かつ商工業都市に近接する優位性や地域内の高速道を生かした収益性の高い産地づくりが必要です。
- 本地域は森林が大半を占めており、十分な農地面積を確保することが困難であるため、付加価値の高い農業生産・販売などによる特色のある産地形成が必要です。また、鳥獣被害が多く生産意欲の低下を来すため、効果的な鳥獣被害対策の取組も喫緊の課題となっています。
- 中山間地域をはじめとして多くの地域は、担い手の減少や高齢化が急速に進行し、農業・農村の持続性が懸念される状況にあるため、将来にわたって地域農業を支える担い手づくりや、地域が一丸となった地域農業・農村を守るための体制の確立が急務となっています。
- 担い手の確保・定着を図るためには、地域・関連産業が協働した地域ならではの特色ある品目の導入や商品づくり、地域資源を有効に活用した交流人口の増加などにより、農家所得を向上させるとともに、地域農業・農村の魅力を高める必要があります。

### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

#### 地域の人と産業が協働して築く、躍動する東臼杵の農業・農村

##### 《めざす将来像》

- ➡ 新規就農者の安定的な参入や法人等の経営力を有する経営体が確保され、本地域の農業生産力が向上しています。また、これらの経営体が少ない地域においても、農業者のみならず、地域が一丸となり、個人農家等への営農支援活動や農地保全活動等が行われるなど、農業・農村の機能が維持されています。
- ➡ 地域内の農業者・関連産業等が協働し、実需品目・特産品目・加工品の安定的な生産・販売や農業・農村の持つ伝統・文化・景観等の魅力を生かしたグリーン・ツーリズム等の活動が活発に行われ、農業収益及び副次的収入の増加によって農家所得が向上するとともに、交流人口の増加で賑わいが生まれ、農村が活気に満ちています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 地域人財のフル活用による農業・農村機能の維持・発展

- 新規就農者の参入促進を図るとともに、将来にわたって地域農業をけん引する担い手を明確化し、これら担い手の経営力向上に向けた取組を支援します。
- 地域の多様な農業者の相互補完連携はもとより、地域住民、行政・団体など地域が連携した個別経営体に対する営農支援体制づくりを支援します。
- 地域の農業者のみならず、林業者組織等の他産業・住民等との連携による、地域が一体となった効果的な鳥獣被害防止活動や農業・農村機能維持活動を支援します。

#### 地域連携による安定した産地づくりと生産力の向上

- 将来にわたって地域農業をけん引する担い手等への農地の集約・再配分を行い、農地の合理的利用を図るとともに、農業生産基盤の整備等により、効率的な営農環境づくりを進めます。
- 地域特性や実需者ニーズを踏まえた収益性の高い品目生産を展開するとともに、飼養頭数の確保や生産コストの低減等により畜産経営の安定を図るなど、魅力ある産地づくりを進めます。
- 食品関連産業や大学等との連携による農産物の価値を高める新たな商品の創造や耕畜連携による畜産業への飼料原料の供給など、計画的かつ安定的な生産体制づくりを支援します。
- 高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病に対する関係者の意識啓発を継続するとともに、飼養衛生管理基準の遵守や消毒の徹底等の家畜防疫体制の強化を図ります。

#### 地域協働と資源の有効活用による魅力ある農村の形成

- 地域の農業者と商工業者等が協働し、消費者ニーズを捉えた特産品づくりに取り組むとともに、農林水産物直販施設等との農産物や特産品の販売連携等により、農家所得の向上と地域活性化に繋がります。
- 世界農業遺産をはじめ地域農業・農村の持つ伝統・文化・景観等の魅力の発信や、農家レストラン、農家民宿等の取組など、地域協働のグリーン・ツーリズムの展開を支援することにより、農村に暮らす人々の所得向上と賑わいのある農村の創出を図ります。



高冷地園芸(椎葉村)  
中山間地域の冷涼な気候を生かした  
花、夏秋いちごの生産団地



野菜工場(門川町)  
農商工連携により実現した、安定的にレタスを  
生産する野菜工場

## 7. 西臼杵地域

### (1) 地域農業・農村の特性と課題

- 西臼杵地域は、九州山地のほぼ中央部、宮崎県の北西端に位置し、熊本県、大分県と接する山間部にあり、平坦地が少なく、生産条件の厳しい中山間地域で、兼業農家が多く、水稻と肉用牛を基幹に野菜や花き、果樹を組み合わせた多様な農業経営が展開されています。
- 少子高齢化の急速な進展に伴う担い手の減少に加え、深刻化する鳥獣被害に起因する営農意欲の減退により、集落の活力低下が危惧されています。
- 夏季冷涼な気象条件等を生かした収益性の高い品目の導入や、農畜産物の高い商品力を生かし、生産から販売まで一体となった取組による農業所得の確保を進めるほか、家畜の防疫体制の強化や農産物の生産工程管理の適正な取組が求められています。
- 伝統的な山間地農業や美しい景観、さらには伝統文化等が世界農業遺産に認定されたことを受け、農産物等の地域ブランド力の向上や都市との交流人口の増加などによる地域の活性化が期待されています。

### (2) 地域農業・農村のめざす将来像

#### 地域の担い手が守り育てる魅力ある農業・農村の構築

##### 《めざす将来像》

- ➡ 世界農業遺産の認定により国内外で本地域が評価され、農産物の付加価値が向上し、都市との交流人口が増加しています。
- ➡ 意欲の高い担い手や集落営農組織等に農地が集積されるとともに、日本型直接支払制度の活用により、農業・農村の多面的機能が維持されています。
- ➡ 夏季冷涼等の気象条件を生かした農畜産物の生産体制の整備や、高いブランド力を生かした産地づくりが進められることにより、地域の担い手が意欲的に農業経営を行っています。
- ➡ 徹底した家畜防疫対策の取組や、環境に優しい農業生産活動により、消費者等から信頼を得た農畜産物の生産が行われています。

### (3) めざす将来像実現に向けた施策の方向性

#### 《重点取組》

#### 集落機能強化による魅力的で住みやすい農村地域の構築

- 日本型直接支払制度を活用した集落による共同管理等で農業・農村の多面的機能を維持します。
- 集落が一体となった鳥獣被害対策を推進し、地域農業を守ります。
- 地域での話し合い活動による人・農地プランを基本として農地中間管理事業を活用し、意欲の高い担い手や集落営農組織等を育成します。
- 神楽に代表される伝統文化や魅力ある美しい景観を継承するなど、世界農業遺産に認定された強みを生かしながら、観光産業との連携や都市との交流等を推進し、活力ある農村をめざします。
- 先人の築いた用水路や棚田等の農業生産基盤を保全・整備するとともに、営農飲雑用水施設や集落道路を整備することにより、住みやすい生活環境をつくります。

#### 地域特性を生かした収益性の高い産地づくりの推進

- 夏季冷涼等な気候条件を生かした収益性の高い品目の導入及び省力化・高品質化生産技術の導入を進めるとともに、安定供給体制を目指した共同栽培施設や集出荷施設等を整備します。
- 肉用牛生産体制を強化するため、飼養頭数の維持・拡大を図る肉用牛繁殖農家に対するサポート体制を強化するとともに、地域内一貫生産体制の確立に向けた取組を支援します。
- 高い品質を誇る地域農畜産物の新たな商品ブランド化を目指すとともに、品目の特性に応じ、生産から販売・PRまで一体となった取組を強化します。
- 消費・販売ニーズを的確に捉えながら付加価値の高い新商品の開発を進め、6次産業化を推進します。

#### 安全・安心で信頼される食料生産体制の確立

- 飼養衛生管理基準の遵守による家畜防疫体制の充実強化に取り組むとともに、焼酎粕等の地域資源を有効活用したエコフィード(食品残さの飼料化)により、安全で環境に優しい生産活動を推進します。
- GAPの実践により、農産物の安全性向上等を図り、消費者等から信頼される産地体制を確立します。



集落による共同管理の取組

日本型直接支払制度を活用した共同管理等で、先人の築いた棚田等の美しい景観を維持



肉用牛生産基盤を強化する取組

JA繁殖センターの妊娠牛下上げ事業など、生産者が安心して肉用牛の飼養が継続できる対策の実施

